

イエス7人の弟子に現れる

ヨハネによる福音 21:1-14

その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度

目である。

食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。

「わたしの羊を飼いなさい。はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

説教

- 1) イエスの処刑後、弟子たちはユダヤ人が捕えられ死刑になるのが怖くて隠れ家にいた。
- 2) 死んだはずのイエスが鍵のかかった部屋に現れる。
- 3) 居合わせなかったトマスが「オレは信じない」といいはり、翌週の日曜日にイエスが現れてトマスは回心する。
- 4) しかし、ペテロはトマス以下7人で故郷ガリラヤに逃げ帰り、もとの漁師に戻る。

- 5) そこにイエスが現れ、主の指示どおりに網を入れると大漁になる。
- 6) 獲れたさかなをイエスといっしょに食べている時、イエスはペテロに「わたしの羊を飼え」と福音宣教を3回命じた。

イエスが活着しているときはペテロたちはくっついて歩いているだけでよかったのですが、肝心のイエスが死んでしまうと弟子たちは腑抜けになってしまいます。しかし、復活のイエスが現れる弟子たちは変わります。

元気いっぱい、元気はつらつになったかどうかわかりません。でも確かに変わりました。弟子たちは宣教を自分たちだけではじめ、イエスの福音は多くの人びとに届きました。

あたりまえの話ですが現在を活着しているわたしたちは活着しているイエスに会うことはできません。その点は鍵をかけて部屋にとじこもっている弟子たちと同じ状況にあります。だからこそ復活のイエスを信じるころが大切、信仰の勘どころになります。でも日本に生まれ育ったわたしたちの社会環境、文化環境は「イエス抜き」のかたちで成り立っています。いってみれば醤油文化でバタ臭さはありません。バターはおいしいですよ、と声高に叫んでみても「暖簾に腕押し」になりがちです。

キリスト教信仰のポイントはユダヤ人が怖くて鍵をかけて閉じこもっている状態から、復活のイエスを見て元気を取り戻した弟子たちの気持ちを理解するところにあります。

復活のイエスに励まされた弟子たちにならい、わたしたちも復活のイエスに慰められ希望を持ち続けることができますように。
